

# 1. 輸血および移植医療強化

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

## 【現地の状況やニーズなどの背景情報】

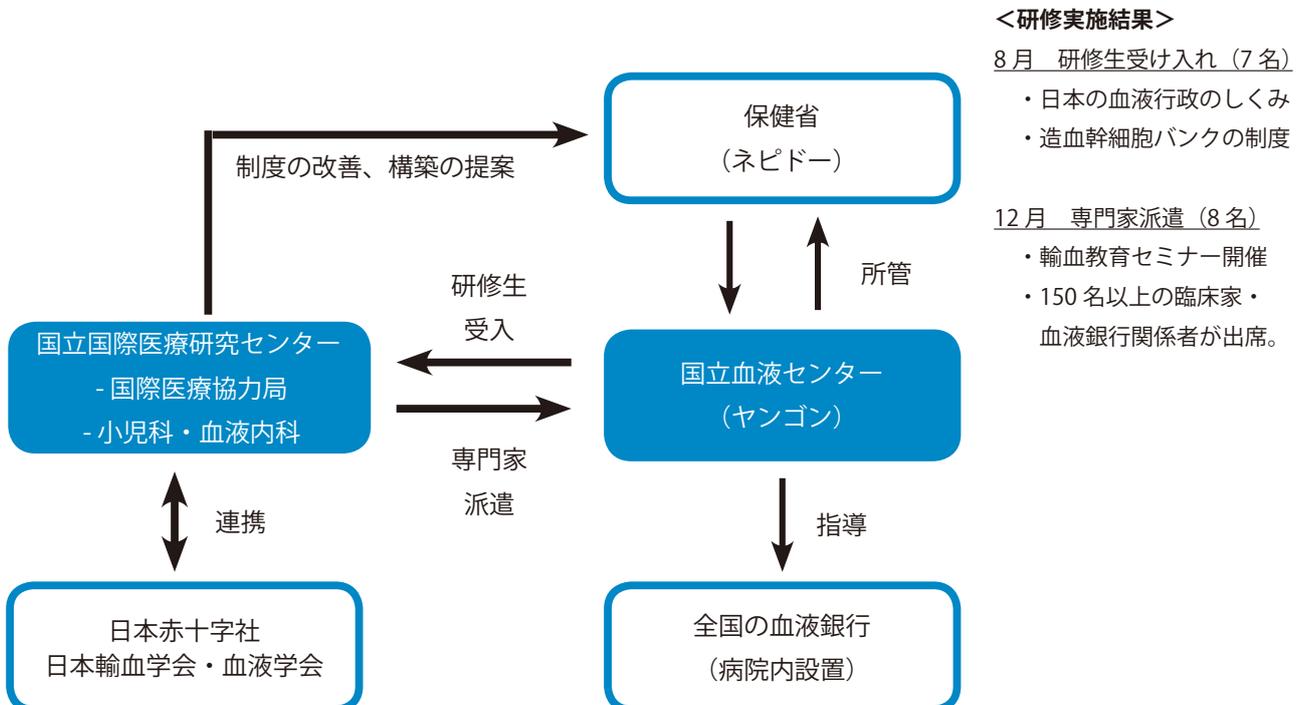
ミャンマー国の輸血事業は近年飛躍的に強化されたが、地方格差や血液製剤の臨床使用の改善など残された課題も明確化している。また医療技術の向上から、将来に備えた移植医療のセンターとなるべき施設の強化が急務となっている。

## 【活動内容】

NCGM はこれまで、輸血関連感染症の予防の観点から、ミャンマー国の輸血行政を支援してきている。また、日本は日本赤十字社（日赤）を中心として安全な血液ならびに造血幹細胞バンクの事業を運営してきた実績がある。NCGM が受け入れ機関となり、日赤や関連学会と協力して、本邦研修を実施する。また、国際輸血学会とも連携しつつ、同分野でのセミナーを開催する。

## 【期待される成果や波及効果等】

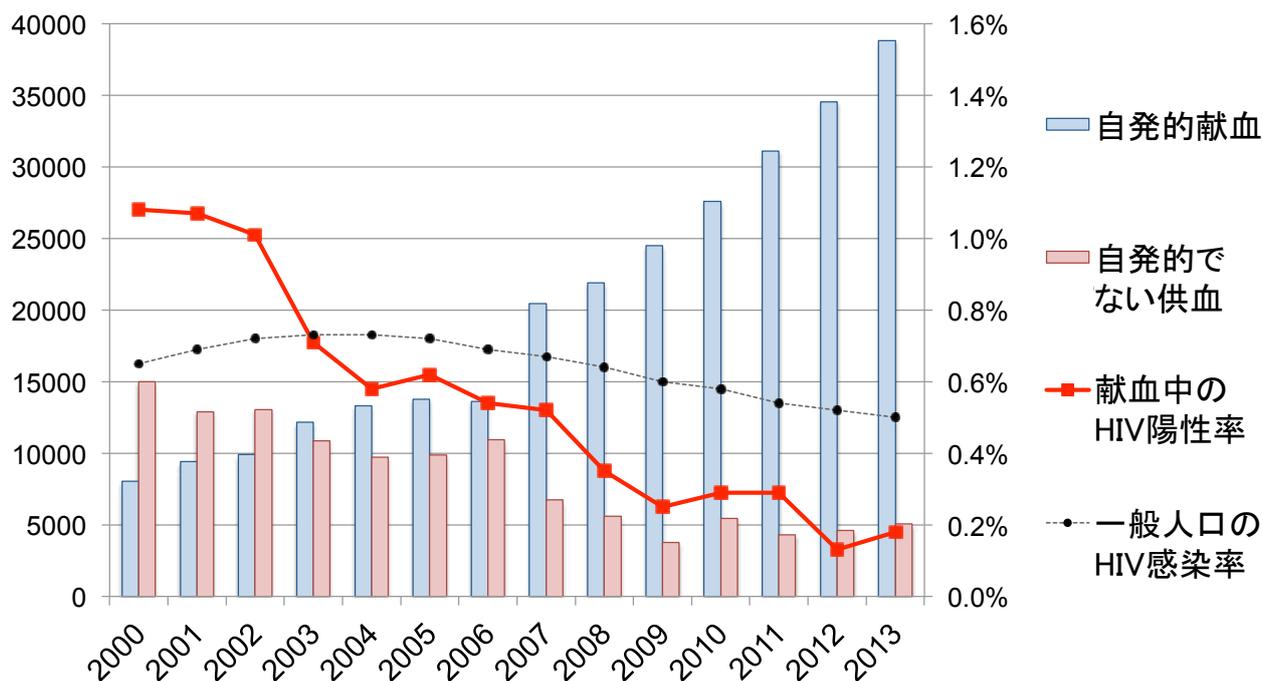
地方の輸血サービスの向上や血液製剤の臨床使用の改善の仕組み作り、ならびにミャンマー国の移植医療の制度作りに貢献する。



## 【背景】

- これまでNCGMは10年にわたり、JICA主要感染症対策プロジェクトを通じてミャンマー国の輸血事業の強化を支援してきた。
- これにより、ミャンマー国の輸血事業は飛躍的に強化されたが、血液製剤の品質管理や臨床使用、サービスの地域格差など、残された課題も明らかとなってきている。
- また臍帯血バンクなど移植医療に関わる分野で民間の進出が活発化してきており、統制がとれなくなることへの危惧が、プロジェクト関連政府関係者から聞かれるようになっており、将来に備えたミャンマー国の移植医療のセンターとなるべき施設の強化が急務となってきている。

## 国立血液センターにおける輸血の安全性の改善



## 厚生労働省 医療国際展開推進事業

### ミャンマー国における輸血ならびに移植医療強化事業

#### 【目的】

- ・ミャンマー国の血液事業のさらなる発展と、将来、移植医療センターとしての役割を担うことが期待される、National Blood Center の能力強化

#### 【事業内容】

- ・本邦での研修；  
日本の血液事業、造血幹細胞バンクのシステムや現場の視察を行う。
- ・専門家の派遣  
現地のニーズに基づき、当該分野の専門家を派遣する。
- ・教育シンポジウムの開催；  
輸血並びに移植医療セミナーを開催する。

#### 【実施体制】

- ・実施機関：国立国際医療研究センター（国際医療協力局・血液内科・小児科）
- ・協力機関：日本赤十字社

### ～事業概念図～



# 本邦研修

期間：2015年8月3日(月)～8月21日(金)

	主な研修内容	主な受入れ先
第1週	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 血液事業の概要</li> <li>• 造血幹細胞事業</li> <li>• 献血推進体制</li> <li>• 品質管理業務</li> </ul>	日本赤十字社(本部、関東甲信越ブロックセンター)、厚生労働省(血液対策課・疾病対策課移植医療対策推進室)、東京大学付属病院
第2週	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 供給、需給管理業務</li> <li>• 採血場視察(</li> <li>• 検査室視察(SRL):輸血、HLA、</li> <li>• 視察旅行:               <ul style="list-style-type: none"> <li>- 京都府血液センター</li> <li>- 中四国ブロック血液センター</li> </ul> </li> </ul>	日本赤十字社(京都府血液センター、中四国ブロック血液センター)、株式会社エスアールエル八王子ラボ、
第3週	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 輸血・造血幹細胞移植の臨床</li> <li>• 病院での安全管理(輸血)</li> <li>• 病院視察</li> <li>• 修了式</li> </ul>	国立国際医療研究センター病院(小児科・血液内科)、国立成育医療センター、



塩崎厚生労働大臣表敬



血液製剤の製剤過程の視察



献血ルーム視察



病院での血液製剤取扱いの様子

## 専門家派遣

期間:2016年1月12日(月)～1月17日(日)

氏名	所属	担当
野崎 威功真	国立国際医療研究センター 国際医療協力局 (JICA 感染症対策アドバイザーとしてミャンマー赴任中)	主担当
森山 潤	国立国際医療研究センター 国際医療協力局	副担当
萩原 将太郎	国立国際医療研究センター 血液内科	血小板輸血不応
佐藤 典子	国立国際医療研究センター 小児科	新生児の輸血
吉原 なみ子	元国立感染症研究所 ウイルス部長	輸血関連感染症
佐竹正博	日本赤十字社 中央研究所所長	ウイルス肝炎
谷 慶彦	日本赤十字社 近畿ブロック血液センター	血液型血清学
百瀬 俊也	日本赤十字社 関東甲信越ブロック血液センター	ヘモビジランス

## 教育シンポジウムの開催

	Day 1 (2016年1月13日)	Day 2 (2016年1月14日)
対象	血液銀行関係者	血液銀行関係者および臨床家(約150名)
主な 内容	血液銀行の実績報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>• National Blood Center</li> <li>• Mandalay Hospital</li> <li>• Magway Hospital</li> <li>• Pathein Hospital</li> <li>• Taunggyi Hospital</li> <li>• Mawlamyaing Hospital</li> <li>• Myitkyeenar Hospital</li> <li>• Naypyidaw Hospital</li> <li>• North Okkalapa Hospital</li> </ul> 日本の輸血の歴史(吉原氏)	開会式 新興感染症(輸血関連) アジアの希少血液型 ヘモビジランス 血小板輸血不応の管理 大量輸血の管理 献血者新規採用の新技術 新生児の輸血・交換輸血 香港の輸血65年の歴史 ウイルス肝炎の課題 クリオプレシピテート
		Dr. Diana Teo 谷 慶彦氏 百瀬 俊也氏 萩原 将太郎氏 Dr Fleur M.Aung Ms Cecilia Tan 佐藤 典子氏 Dr. Lin Che Kit 佐竹正博氏 Dr Jean C. Faber



教育シンポジウムの講師及び来賓



保健省事務次官のご挨拶



講演の様子①



講演の様子②



講演の様子③

## 今後の課題

- 血液型血清学検査の改善（不規則抗体のスクリーニング）
- 成分輸血・血漿分画製剤の製剤と利用の促進
- 血液製剤の臨床使用の改善
- 地域格差の是正
- 輸血関連感染症の検査能力向上